

広報

もり 中部の森林



写真：美ヶ原高原 中信署(美ヶ原グリーン・サポート・スタッフ)提供

特集

- ・令和3年8月の大雨への対応

各地からのたより〈拡大版〉

- ・立山の長期に亘る緑化復元事業
- ・高山植物等保護対策協議会中信地区協議会の取組 ほか

シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、秘蔵写真・今は昔の林業、中部の保護林、お役に立ちます国有林

私の森語り!「みどり愛」の発信
2021ミス日本みどりの女神 小林優希



林野庁中部森林管理局

2021/No.210

〈特集記事〉

令和三年八月の 大雨への対応

令和三年八月の大雨による災害により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。

◇中部森林管理局 災害対策本部の設置

【企画調整課】

八月は前線の停滞による断続的な短時間強雨により、九州地方をはじめ全国各地において大雨をもたらしました。中部森林管理局管内においても、長野県木曾郡や岐阜県恵那市・中津川市等において、七十二時間雨量が観測史上最大となる大雨となりました。

当局では、八月十三日に災害情報連絡室を設置し情報の収集を行ってきましたが、管内六十六もの市町村に土砂災害警戒情報が発表されたことや管内各地の被害情報を受け、十五日に「中部森林管理局災害対策本部」を設置しました。

これ以降、対策本部において、林野庁本庁や関係森林管理署等、県・市町村など関係機関と連携・情報共有をしつつ、必要な災害対応を行っています。

◇関係県・市との合同でのヘリコプターによる被害状況調査を実施

【治山課】

中部森林管理局では、関係県・市との合同でのヘリコプターによる上空からの被害状況調査を八月二十七日に長野県中信地域、三十日に岐阜県東濃地域において実施し、引き続き、天候等の状況を踏まえつつ、長野県木曾地域、南信地域の調査を行う予定です。

これまでのヘリコプター調査の結果、飛行ルート上の国有林では、一部の既存崩壊地において小規模な拡大崩壊、民有林の一部において渓岸浸食等が確認されたものの、今回の大雨に伴う大規模な新生崩壊や河道閉塞は確認されませんでした。今後、地上からの現地確認を逐次実施する予定です。

当局では、これらの調査結果について、民国連携した迅速な緊急

対応や効果的な復旧計画等に活かすこととしており、近年、記録的な短時間強雨の発生が増加傾向にあることを踏まえ、今後とも災害の復旧・予防に万全を期する考えです。



飛行前の調査計画打合せの様子



調査ヘリコプターへ搭乗(右)、機内で調査準備を行っている様子(上)

2021.8.30
ヘリ調査写真(阿木
恵那国有林)(上)、
2021.5月のGoogle
Earth写真(左)

◇国有林林道の被害状況
【森林整備課】

長野県木曾地域・岐阜県東濃地域をはじめとした管内の国有林の林道に甚大な被害が発生しました。九月八日時点で、四十路線六十一箇所において、路体決壊や橋梁流失が確認され、現在、被害の全容を把握するため、局署を挙げて調査を行っているところです。林道は、事業実行の根幹となる重要な施設であることから、被害



中信森林管理署 贛川橋戸（贛川）林道



木曾森林管理署南木曾支署 南蘭（大迷沢）林道

箇所^{箇所}の早期復旧に向けて全力で取り組むこととしています。

◇国有林林道を

村道迂回路として活用

【森林整備課・木曾森林管理署】

八月十五日には長野県王滝村^{おうたきむら}滝越地区^{たきごし}に通じる村道が崩落し、地区住民が孤立、翌十六日に長野県防災ヘリコプターにより救助されました。



応急整備の不陸整正（8月18日 請負者：みどり産業株）

村道復旧の長期化が予想されたことから、王滝村より木曾森林管理署管理の国有林林道を、三年前の平成三十年七月豪雨災害時と同様に迂回路として活用したいとの要請があり、十八日に迂回路として活用するルートの選定及び安全確認を木曾森林管理署と王滝村職員で実施しました。早急に一時帰宅を実現すべく、林道整備を担う事業者の協力を得て、崩土除去^{ほうどじよきよ}不陸整正^{ふりくせいせい}を実施しながら応急整備した結果、当日中の通行を確保しました。



迂回路で一時帰宅者を先導する
木曾森林管理署の森林官車両（8月19日）

これにより、王滝村による国有林林道を利用した避難住民の一時帰宅が、翌十九日に行われました。一時帰宅にあたっては、木曾署の車両が安全を確認しながら、住民の皆さんが乗った車両を先導し、約三時間自宅滞在後、再び避難所へ戻られました。要請を受けてから、関係者等が連携し迅速な対応を行ったことにより、救助から三日後には一時帰宅が実現できました。現在、より安全に通行できるよう、草刈りなど更なる整備を実施しています。



立山黒部アルペンルートの様子

【富山森林管理署】

立山の長期に亘る
緑化復元事業
地域の関係機関・団体・
企業等が力を合わせて
二次緑化を開始



七月二十八日、ブナ坂国有林の立山黒部アルペンルート周辺の自然植生の復元を図るため、ミヤマハンノキの管理作業を行いました。

立山黒部アルペンルートは昭和三十年代に建設された黒部川第四発電所の工事用資材運搬路を利用して現在のルートが整備されましたが、当時、裸地として残された資材運搬路跡地等の復旧については、関係機関・地元企業・専門家等で構成される「立山ルート緑化研究委員会」において緑化木の検討が行われ、気象の厳しい高山・亜高山帯における早期緑化のため、現地で採取した種子から育てたミヤマハンノキの苗が肥料木として植栽されました。

この取組により、植生が良好に回復するための土壌が維持・形成

され、早期緑化が実現しました。一方、肥料木のミヤマハンノキは近年大きく繁茂し、観光バス等の交通の安全や美しい眺望の支障となっているほか、ミヤマハンノキに被圧されて自然侵入による本来の植生への遷移が停滞している例が見られるなど、問題が指摘されるようになりました。

この状況に対処するため、当署では立山ルート緑化研究委員会と連携して試験的にミヤマハンノキの除伐を行いました。

この結果を踏まえ、幅広い関係者と情報交換・意見交換を行う中で、今般、「NPO法人きんたろう倶楽部」の協力を得て、ボランティア活動によりミヤマハンノキを管理する取組を開始することとなったものです。

当日は、富山県森林研究所からミヤマハンノキ植栽の経緯や現在生じている問題について説明があり、参加者は熱心に話を聞き、この取組の意義を感じながら、鋸でミヤマハンノキの枝を切るなど作業を進めました。





巻き枯らし処理をしたオノエヤナギ



富山県森林研究所から、伐採方法等の説明を受けている様子



伐採した枝条を整理している様子



ミヤマハンノキの伐採作業の様子

また、ミヤマハンノキの群落に混在する外来植物オノエヤナギは、伐採しても再生し、伐採した枝等から増殖する危険もあることから、自然保護団体の専門家が巻き枯らし処理を行いました。

さらに、ボランティア参加者の現地までの参集方法については、立山黒部貫光(株)にケーブルカーや高原バスの利用について配慮してもらおうなど、今般の取組を実施するに当たっては多くの関係機関・団体・企業等の協力をいただきました。

なお、伐採したミヤマハンノキの枝・葉については、後日、遊歩道周辺の裸地化が進行している箇所、土壌侵食の防止等を図るためのマルチング材として有効利用しています。

また、ミヤマハンノキの伐採箇所については、立山ルート緑化研究委員会と連携し、伐採後のモニタリング調査を行い、本来の植生に還元していく状況を継続的に確認し、その調査結果を今後の取組に反映させていくこととしています。

今回の取組は、裸地を植物で覆

い土壌の流亡を防ぐ「二次緑化」から、本来の植生に近い状態に戻すという「二次緑化」に移行する取組になります。立山黒部アルペンルート沿いのミヤマハンノキの植栽地は七十カ所に上り、二次緑化も長期に亘る取組となりますが、地域関係者が力を合わせて、立山の自然環境の保全や地域振興に貢献できるよう引き続き取り組んでまいります。



作業箇所に生息しているゼンテンカ (通称：ニッコウキスゲ)



時折青空が見えました (室堂周辺)





高山植物等保護パトロール中に見かけた花々

**高山植物等保護対策協議会
中信地区協議会の取組**

【中信森林管理署】

高山植物等保護対策協議会中信地区協議会では、例年七月中旬から八月上旬にかけて関係自治体及び関係団体と連携して、高山植物等に対する保護思想の普及活動と山岳環境の美化活動を行っています。

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止と度重なる天候不順により規模を縮小し、事務局スタッフのみで行いましたが、今年は、マスクの着用やソーシャルディスタンスなど基本的な感染症予防対策を講じながら、美ヶ原・白馬・上高地・乗鞍の四地区で、高山植物等保護パトロールを合同で実施しました。

【美ヶ原地区】

七月十四日、曇天で午後から雨の予報も出ていたことから、入山者も少なめでしたが、三班に分かれて、それぞれ「王ヶ頭」、「思い出の丘」、「美しい塔」の周辺を巡



視し、入山者等に啓発用の高山植物カードを手渡ししながら、マナー啓発等の呼びかけを行いました。

パトロールの結果、遊歩道を外れた立入り禁止区域への侵入や無許可採取や摘み取り等の違反行為もなく、ゴミもほとんど見受けられませんでした。

また、以前より問題になっていたペットを連れての散策や踏み荒らしなども見受けられず、日頃の森林管理署森林保護員（グリーン・サポート・スタッフ。以下「GSS」という。）の啓発活動の成果が現れているものと実感しました。



マナー啓発等の呼びかけを行っている様子



【白馬地区】

七月二十一日、晴天で酷暑の中、白馬岳等登山口の猿倉荘をベースに、その周辺と大雪溪まで行く二班に分かれてパトロールを行いました。大雪溪周辺はとても涼しい冷気で一気に汗も引き、爽やかな気分になりました。登山ルートでは、行き違う登山者も少なめでしたが、昨年の同時期と比較すると人出は増えているように感じました。

また、啓発活動が功を奏しているのかゴミも少なく、登山者のマナーが着実に向上していることが感じられました。



大雪溪入口の様子

【上高地地区】

七月二十八日、台風八号が近づいている影響で雨天でしたが、早朝から横尾山荘に集合し、涸沢及び檜沢コースの二班に分かれて巡視を行いました。横尾から下流域は、日頃からGSSや「上高地を美しくする会」が美化活動を行っています。上流域は活動対象区域としていないためか、食べ物の包みなどのゴミが多かったように感じました。

三密になりにくい野外レジャーに注目が集まり指定場所外キャンプが増えたとの情報もありましたが、決められた区域内でのキャンプとゴミの持ち帰りについて引き続き、啓発活動を行う必要があると感じました。



マナー啓発のパンフレットを配布している様子

【乗鞍地区】

八月六日、晴天の中、畳平をベースに、お花畑周辺や山頂を目指すコースなど、五班に分かれてパトロールを行いました。

標高三千メートル級の乗鞍岳頂上付近では涼しさよりも肌寒さを感じられ、お花畑の高山植物も秋の花へと移り変わりを見せ、チングルマの花も綿毛になっていました。

コロナ禍ではありますが、交通アクセスが良く、日帰りでハイキングが楽しめる乗鞍では、比較的多くの観光客や登山者・スキーヤーで賑わっていました。



マナー啓発の様子(右)、ゴミ拾い及び集めたゴミの様子(左)



大雪溪で山スキーを楽しむ人たち

四地区のパトロールを終えて 全体的には入山者が少なめではありましたが、コロナ禍において、いろいろなライフワークに規制がある中で、自然豊かな山々へ安らぎを求めて入山する初心者の登山者が増えているように感じられました。 今後も合同パトロールを通じて、入山者へのマナー啓発や、美化活動を継続的に進めていきたいと考えています。

〈各地からのたより〉

伊那市五十年の
森林づくり植樹祭が開催!



【南信森林管理署】

六月二十九日、伊那市長谷地区にある鹿嶺高原市有林で「伊那市五十年の森林づくり二〇二一植樹祭」が、地元の長谷小学校全校児童、林業関係者等を含め総勢約百二十名が参加し開催されました。



伊那市長の挨拶

はじめに、白鳥孝伊那市長からは、今回植樹するミズナラは根をしっかりと張って、水を貯める力にとっても優れ、土砂災害の発生を抑える力があることや、緑豊かな災害に強い山づくりを行う上で木



ミズナラの苗を植える
長谷小学校の児童たち

を植えることの意義などについて挨拶がありました。その後、植樹に関する説明や注意事項を受け、二人一組で、「西春近の諏訪地区を災害から守る委員会」が大切に育てたミズナラの苗木約六百本の植樹を行いました。霧が立ち込める中での植樹も半ばを過ぎた頃には、霧が晴れて、太陽が顔を出しました。青空の中、眼下に広がる伊那市の町並みを見つけた児童や先生からは歓声が沸き上がり、約一時間半の植樹作業にいい汗を流し無事終了となりました。自分たちの植えたミズナラの苗がスクスクと育つようお願いを込めて、大きなミズナラの木と一緒に記念撮影をして幕を閉じました。

南木曾小学校
三年生森林教室!

【南木曾支署】



五月三十一日、蘭美林自然探勝園で、南木曾小学校三年生を対象に森林教室を開催しました。南木曾町では、児童に自然散策、人と木との関わり、体験林業(除伐)などを体系的に森林の重要性を理解する学習が行われています。

蘭美林自然探勝園には、整備された遊歩道内に樹齢二百年を超える荘厳な天然林があり、木曾を代表する木曾五木(ヒノキ、サワラ、アスナロ、ネズコ、コウヤマキ)を観察することができます。

森林の働きを学んだ後は、遊歩道を散策し、毎年好評なのがヒノキの太さ・高さの予測クイズです。児童たちも真剣に、目安で立てかけた八咫の木の棒とヒノキを見つめて「高さは三十センチくらい、ありそう」と友達と一緒に予測し、正解した児童に署員から「将来一緒に働けると良いね」と会話も弾みました。太さについては、輪尺(立木の直径を測る器具)を使って自

分たちで正解を確認しました。また獣害対策を行っている箇所では、実際に代表の児童がウイリー(クマ用樹木剥皮防止資材)を取り付けました。散策終了後、児童たちに感想を聞いてみると「大きな木と、小さな木があった」、「色んな葉っぱがあつて面白かった」などの声がかれ、普段歩き慣れないような道でも、元気に楽しく学んでいる姿を見ることができました。



輪尺で、木の太さを測っている様子

後日、児童、先生から心のこもったお礼状が届き、木や葉っぱの形や匂いの特徴・木の樹齢の数え方・太さと高さの測り方を学べたことが楽しかったなどの感想がつけられており、充実した温かいふれあいがあったと実感しております。

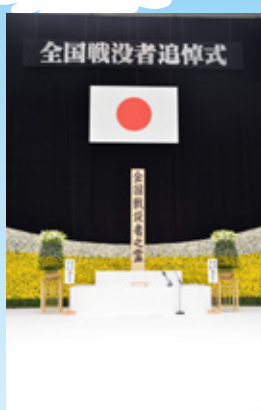
天然木曽ヒノキに

平和の願い



【木曽森林管理署】

終戦から七十六年を迎えた八月十五日、先の大戦において亡くなられた方々を追悼し平和を祈念するため、政府主催の全国戦没者追悼式が日本武道館（東京都千代田区）で行われました。



令和3年度 全国戦没者追悼式の標柱

追悼式は昭和三十八年から毎年行われ、追悼式会場の式壇中央に設置されている「全国戦没者之霊」と書かれた標柱には、天然木曽ヒノキが使用されています。

式典を実施する厚生労働省の追悼式用標柱の仕様は、材質はヒノキ、規格は四十〜四五・五センチメートル×四十〜四五・五センチメートル×四五・五センチメートルと決められています。標柱木を作るには、末口の直径が六十センチメートルの原木が必要です。また、

製材した際に無節の面が最低一面採れることも条件です。

六月二十九日、厚生労働省社会・援護局の担当者が来署され、水ヶ瀬土場において、当署職員が柱として削つても節が出ないと判断した直径六四センチメートル、長さ五メートルの一本を選定しました。

八月四日水ヶ瀬土場を出発した原木は、背割りを入れ、かなな削りを行い八月十三日には、書家により標柱に文字が入れられたそうです。

天然木曽ヒノキはこのような特別な用途にも使用されています。



標柱に選定された天然木曽ヒノキ丸太

地域と連携して

有害鳥獣の食害等から 農林業を守ろう！



【南信森林管理署】

七月八日、伊那市防災コミュニティセンターにおいて、鳥獣の保護及び知識と技術を習得し、捕獲に役立てることを目的に当署職員、伊那谷総合治山事業所、木曽森林ふれあいセンター職員、今年新たに上伊那地域（伊那市外七市町村）の鳥獣対策担当者を含め、約四十名の参加により「鳥獣保護及び狩猟に関する講習会」を実施しました。

当署管内では、ニホンジカの職員捕獲をはじめ、くくりワナの貸出や地元猟友会との協定、「ついで見回り・通報」、各種協議会などとの連携・協力により、昨年は三、〇四一頭を捕獲することができました。これは中部森林管理局管内での全捕獲頭数の五七割に相当しています。

午前中は上伊那及び南信州地域振興局林務課の「鳥獣対策専門員」を講師に、鳥獣保護法や鳥獣

の生態、特性について学び、習得状況を再確認するために一般に行われている狩猟免許試験同様の考查を行いました。

午後からは、通常晴天であれば、国有林内で獣道を見極めつつ実際にくくりワナを掛ける実技が行われますが、雨天だったことから、同会場で伊那市猟友会会長他二名の方から当署管内で使用している笠松式、平澤式、黒川式、ベアーウオーク等様々なくくりワナを会場に持ち込み、設置方法、設置する場所の選定、設置する際の注意事項、獣がワナに掛かった後の対応等について学びました。

今年も講習会で学んだことを活かし、各市町村、地元猟友会、関係機関等地域と連携・協力して有害鳥獣被害対策に取り組んでまいります。



くくりワナについて説明している様子

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【東濃森林管理署中津川治山事業所】

治山技術官 中澤 栄貴

中津川治山事業所は岐阜県

南東部（中津川市南部）の七、

四四七ㄱに及ぶ流域の治山事

業を担当しています。当該地

域には木曾山脈の最南部に位

置する恵那山（標高一、一九一

メートル）を最高として焼山や鯉子山

などの標高一、五〇〇メートル級の山

が連なっており、中津川市街

の重要な水源地帯となってい

ます。

木曾山脈は主に花崗岩から

なり、本来は堅硬な岩石ですが、

当地域内には恵那山断層をは

じめとする多くの活断層が存

在し、それらの破碎作用の影

響を受け深層風化が著しいた

め、付近一帯は「マサ」と呼ばれ

る砂上風化物が山腹斜面を覆っています。その影響で表

層崩壊が発生しやすく、山腹斜面には多くの崩壊地が確認できます。当事業地の中でも特に湯舟沢国有林には大規模な崩壊地が点在しており、長年復旧工事をしてきました。



湯舟沢国有林（姥ナギ沢崩壊地）

しかし長大で急傾斜且つ脆い斜面での作業は非常に危険なため、無人のバックホウを

ワイヤーで吊して斜面の整形を行う工法などを採用し工事を進めています。



無人バックホウによる斜面整形

また、ドローンを使った航空測量にて面積や掘削土量の算出を行う取り組みも試験的に行っています。これは人が不安定な斜面に入ることなく測量ができるため安全且つ効率的です。

近年建設業でも担い手不足が大きな問題となっており、そのような問題に対応するには

ICT(情報通信技術)を積極的に取り入れていくことが不可欠です。治山工事においてもICTを積極的に取り入れ、労力軽減・安全作業の推進や生産性の向上を図っていききたいと思えます。



ドローンで崩壊地調査を行う筆者

■未来の担い手へのメッセージ

近年の自然災害の激甚化に対応するため、国土強靱化が一層求められています。治山事業を通じて、地域の防災・減災に貢献してみませんか。

シリーズ
「私の森林語り」
もりかた

「みどり愛」の発信



2021 ミス日本
みどりの女神
こばやし ゆうき
小林 優希

■自己紹介

慶應義塾大学経済学部四年生です。

「みどりの女神」の活動では、緑の募金活動の広報や、全国各地の林業現場の視察を行っています。また、チェーンソーの講習を受講し、みどり業界全体への理解を自ら深め、同世代への認知向上を目指しております。

■活動内容

先日は、愛媛県えひめけんの農業高校で行われた、森林組合主催の就業説明会にオンラインで参加。SDGsの基本的な知識や、林業界として

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。



のSDGsへの携わり方についてお話をしました。



オンライン会議での講演

私は、木を「植える・育てる・伐る・使う」のサイクルに携わる仕事全てが林業だと考えています。視察した各地の森林組合では、山の管理をする第一線の森林組合以外にも木を使った商品開発や、森林空間をそのまま活用する森林サービスマスターに注力されていました。木の循環サイクルに携わることで、みどり業界を活性化させること、そしてSDGsに貢献すること

とができる。林業やSDGsへの携わり方は、多様に存在すると気が付いたので。

進路を考える高校生への講演では、SDGsへの理解を深めてもらうことに加えて、少しでも多くの選択肢を知ってもらいたいという思いがありました。彼らの選択が、一緒に

みどり業界を盛り上げていくものであれば良いな、そのような願いを込めて。



チェーンソー講習に参加

■メッセージ

知れば知るほど深くなるのが、みどりへの愛。

山や自然は神秘的で、不思議と力が漲るみなぎる。木で用いられた空間にいと、色や匂いの安心感にいつの間にか癒される。活動を通して、みどりのパワーの大きさに気付かされました。

「みどりの女神」の活動は、SNSにて発信しています。発信の中

では、先述したような私の「みどり愛」を記すこともしばしば。そのような発信を見て、友人からは「一緒に山に登ってみたい」、発信を見てくださった方からは「木のグッズが可愛くて気になる」と連絡がありました。みどりへの興味が広まりつつあることが、私は嬉しくてたまりません。

今後この業界に携わる一人として、止めどない「みどり愛」の発信を続けていきます！



森林遊歩道の整備など、生活に森を感じる事業を視察

○連絡先

一般社団法人ミス日本協会
〒一六〇〇〇二二
東京都新宿区西新宿二一七一
京王プラザホテル南館九階
ホームページ
<https://www.missjpn.jp/>



シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第5回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登いのうえ ひろと

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「斧での伐採」

日本でチェーンソーが本格的に普及するのは昭和三十年代のことですが、それ以前の本の伐採は斧(ヨキ)と鋸(ノコ)を組み合わせて行われていました。江戸時代の木曾では鋸での伐採が禁じられていたとも伝えられています。斧だけを用いた伐採技法



大正九年「神宮御造管材斧入ノ実況」
(現在の東濃森林管理署管内)

は、儀式的な意味合いを持って現代にも伝えられています。

昔は伐木に携わる林業労働者はてま杣と呼ばれる、技術と経験を持った者は斧と鋸を用いて、ほとんど思う方向に倒すことができました。樹種や木の太さにもよりますが、普通の者で一日に十数本、熟練した者で二十本以上伐採することができたと伝えられて



昭和18年頃「伐木の受け口掘り」
(現在の南信森林管理署管内)



昭和30年頃「雪上伐採」
(現在の北信森林管理署管内)

います。杣の賃金は伐採量によって計算されましたので作業効率が稼ぎに直結するのですが、伐木は危険の伴う作業ですので、体調や天候、及び安全のための縁起担ぎには特に気を遣ったようです。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノク口森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、QRコードを読み込んでください。



太古の昔、恐竜が歩いていた森

はくさん
白山 森林生態系保護地域

設定目的

この地域は豪雪地帯であるため、日本海型特有の植物群落がみられ、また、日本最西端の高山帯が分布し、西限と目される種が多く、植物学上からも貴重な地域です。

動物は、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンザル、イヌワシ、イワヒバリ、ホシガラス、カヤクグリ等が生息し、昆虫等も貴重種が分布しています。

その生態系を保護・管理し、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に役立てるため、保護林として設定しています。

地況・林況

岐阜県と石川県との境をなす白山山脈周辺にある大起伏山地です。

地質は、白山の熔岩、中生代に由来する手取層群、濃飛流紋岩類及び白川花崗岩です。平成元年八月、森林生態系保護地域内で一億四千万年前に生息していた草食恐竜イグアノドン科と見られる足跡の化石が発見されました。化石のレプリカは岐阜県博物館に展示されています。

植生は、山地帯のブナ林、亜高山帯のダケカンバ林、高山帯のハイマツ等で原生的な天然林が広範囲に分布しています。

シリーズ

中部の保護林(第5回)

所在地
岐阜県白川村



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載しておりません。

白水湖

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、QRコードを読み込んでください。



中部森林管理局では、森林の公益的機能の発揮や林業の成長産業化に向けて様々な取組を行っています。その中から民有林行政、林業や森林土木事業に携わる皆様に、参考にしていただけたら幸いです。

また、当局ホームページにおいてもこれらの事例を紹介しています。

詳細は、QRコードを読み込んでください。



低コスト造林 ～成果の見える化～

1. ねらい

造林事業の低コスト化を推進するため、取組成果をわかりやすく発信します。

2. 概要

契約金額での比較では、D材（林地残材）の搬出等による無地拵や下刈の隔年実施による無下刈等による低コスト化の成果が把握できません。

このため、こうした取組も含めて積算段階（直接事業費）で比較することにより、「成果の見える化」を図りました。

3. 成果(令和2年度実績)

◎地拵

作業仕様区分	実行面積		平均単価	
	(HA)	割合	(万円/HA)	比較
筋刈筋置	218	66%	33	100%
無地拵	4	1%	0	0%
刈払のみ	49	15%	18	55%
枝条整理のみ	6	2%	12	36%
機械地拵(グラップル)	2	1%	24	73%
機械地拵(バケット)	13	4%	14	42%
薬剤散布	40	12%	13	39%
計	332	100%	27	82%

注：平均単価の比較は、筋置筋刈を100とした各作業仕様毎単価コストの比較
*地拵の外、植付、下刈、シカ被害対策についても成果の見える化を図っています。



筋刈筋置地拵



機械地拵



刈払（筋刈）のみの状況

4. お問い合わせ先

森林整備課 電話026-236-2566

お役に立ちます

国有林

民有林行政、林業や森林土木事業に携わる皆様へ



国民の森林・国有林

国有林モニターのご紹介



もりすみ 杜住 (ペンネーム)
(長野県)

◇自己PR…(趣味や特技など)

庭作り

◇国有林モニターに

応募いただいた理由

台風や大雨、強風などの天災のたびに山崩れや倒木などの被害が頻繁におきていて、なぜそうなるのかどうしたら防げるのかを知りたくて応募しました。

◇国有林に期待すること

身近に感じられるものであってほしいです。

※写真の花は「クリンソウ」

初秋を感じる花!

まだまだ、暑い日々が続いていますが、高原からは、秋の訪れを感じさせる花々が咲いてきました。



【エゾリンドウ】(蝦夷竜胆)

お盆に、お仏壇にお供えするこ
とが多い花です。花屋さんのリン
ドウは、この栽培種となります。



【マツムシソウ】(松虫草)

名前の由来は、松虫(鈴虫)が鳴く
ところに咲くことからする説が
あります。先端に花が無いのは、
シカに食べられた跡です。



【ウメバチソウ】(梅鉢草)

中央の白い花。別名は、バイカ
ソウ(梅花草)。

【イワインチン】(岩茵陳)

黄色い花。岩場のヨモギという
意味があります。

新型コロナの感染リスクを 下げるために全ての場面で 引き続き守ってほしいこと

- マスク着用や三密(密閉・密集・密接)の回避を徹底しましょう。
- 換気を良くしましょう(室内の場合)。
- 集まりは、少人数・短時間を心掛けましょう。
- 大声をたえず会話はできるだけ静かにしましょう。
- 共用施設の清掃・消毒、手洗い・アルコール消毒を徹底しましょう。

改めて、三密の回避、手洗い、マスク着用、換気、共用施設の消毒などの徹底をよろしくお願ひします。詳しくは、次のQRコードを読み込んでください。

◇感染リスクが高まる「5」の場面

(内閣官房)

◇新型コロナウィルスについて

(農林水産省)



編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、
migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

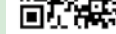
令和3年8月の大雨による災害により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災地の皆様にお見舞い申し上げます。

仕事から毎日、新聞記事をチェックしています。地域版には、〇〇高原でマツムシソウが見ごろといった見出しが目につくようになりました。猛暑の中でも季節は秋になったなあと感じていましたが、9月に入ったとたんに朝晩は、気温が下がり、今日は、長袖か半袖か?毎朝悩んでいます。確実に過ごしやすい季節になってきました。

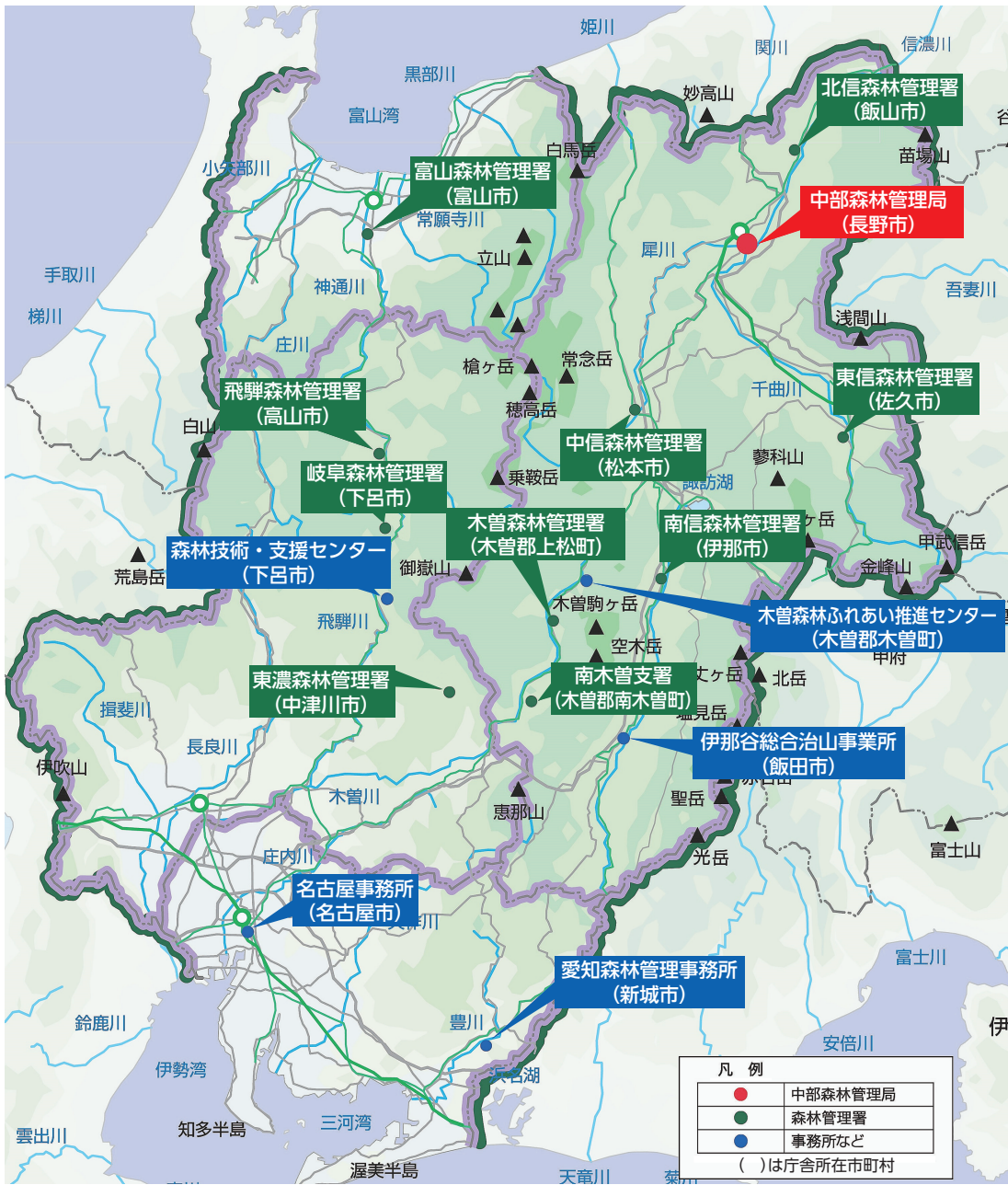
高山帯の花々も終盤になってきました。管内のGSS(グリーン・サポート・スタッフ)等から報告のあった花々の写真を今月号ではたくさん掲載させていただきました。目と心の保養になれば幸いです。

また、いつでもお気軽に自宅で森林や自然の風景を楽しむことができる「デジ森(もり)」で、美しい風景もご覧になってください。

デジ森への入場ゲートは、左のQRコードを読み込んでください。



61.横尾広場 (中信署管内)



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下のQRコードを読み込んでください。



中部森林管理局ホームページ



広報「中部の森林」



用語の解説
本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	FAX 052-683-9269
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	FAX 076-424-4934
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	FAX 0269-62-4144
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	FAX 0263-47-4754
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	FAX 0267-82-6959
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	FAX 0265-72-7774
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	FAX 0264-52-2582
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	FAX 0264-57-2686
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	FAX 0577-34-8932
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	FAX 0576-62-2503
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	FAX 0573-82-2109
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	FAX 0536-23-2254
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	FAX 0576-25-2420
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島1250-7	TEL 0264-22-2122	FAX 0264-21-3151
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	FAX 0265-22-0149

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
FAX：026-236-2733
<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>
または、右のQRコードを読み込んでください。



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。